

生涯教育月報



広島県：厳島神社

2018年度 奨学生成果発表	2
歴史研修「伊予の城めぐり」	4
美術研修「熱海・根府川の美術館をたずねて」	6
プロフィール・インタビュー 放送大学 教授 岩崎 久美子さん	12



学ぶ姿勢が切り拓く 人生の新たな可能性



後列左から、白水一郎さん、田村裕介さん、松原みづえさん、齋藤徳子さん、福富俊幸さん、山本晃一さん、中央左から、梶原めぐみさん、寺浦久仁香さん、羽室倫子さん、栗田裕子さん、小峰茂さん、前列左から、小林大三さん、恵谷美香さん、城真二常務理事、石郷岡真さん、稲垣光代さん

2019年3月22日、2018年度奨学生成果発表会が行われた。

科目等履修生9名、放送大学大学院修士全科生6名の計15名が、それぞれの研究成果と今後の展望を発表した。

科目等履修生

石郷岡 真さん

國學院大学 文学部

中世日本の景観を歴史学の側面から研究する「景観論」に取り組んだ。中世の文書資料を紐解いて実際の荘園の姿を構築する作業は楽しく、自分が学生だった頃よりもさらに進んだ現在の研究動向や方法論を学ぶことができた。日頃、高校生に日本史を教えているので、自分の勉強が若者たちを支えているという自覚しながら、自己満足に終わることなく学習を続けたい。



さらに学習を続けたいと語る石郷岡 真さん

稲垣 光代さん

大阪大学 外国語学部

ドイツ語検定の受験・合格を目標に勉強を続けてきたが、難易度の高いドイツ語検定準1級になかなか合格できずにいた。思い切って仕事を休職し、1年間大学でドイツ語を勉強し直すことにした。ドイツ語を母語とする先生の授業はレベルが高く、間違いもたくさん指摘されたが、ドイツ語の表現方法を学ぶうえで大いに参考になった。結果、ドイツ語検定準1級に合格。奨学金をいただいたことがいい意味でプレッシャーとなり、勉強に層力が入った。

梶原 めぐみさん

京都府立大学 生命環境学部 環境デザイン学科

故郷・淡路島をテーマに、南海道から見た淡路島の役割の研究、芸術を通して地域コミュニティづくりの研究に取り組んだ。

今年、京都・祇園祭の作事方の手伝いに参加する機会を得た。祇園祭の作事方は、町内の人・京都に住



地域コミュニティづくりの研究に取り組んだ梶原めぐみさん

む人だけでなく、全国各地から手伝う人たちを受け入れていることがわかった。「どういった方法でコミュニティづくりをしていくか」を考えようとして、ひとつの大きな研究成果となった。

齋藤 徳子さん

國學院大学 博物館学課程

学芸員資格取得を目指して博物館学課程を履修した。実習で展示企画案の制作に取り組んだが、考えた企画案を来館者の動線や資料の特性・構成のバランスを考慮しながら展示設計図に落とし込むことがいかに難しいことを思い知らされた。次年度は、資料を取り扱う本格的な実習が始まる。これまでに得た知識をもとに、向上心をもって取り組むたい。



学芸員資格取得を目指す齋藤徳子さん

白水 一郎さん

明治大学 大学院 法学研究科

医学部受験生を指導している私は、数年前から大学で「医療」「法律」の両方を扱う科目を学んでいる。今年「家族法」「医事法」を

テーマに、終末期医療における安楽死や尊厳死の問題、生殖補助医療における代理母出産の問題を研究した。代理母出産の問題は、日本でも法制の議論がある。どのような形で法制されるかを今後も研究していきたい。

田村 裕介さん

早稲田大学 商学部

勤務する自動車部品メーカーでマーケティング部に異動になったことをきっかけに、大学でマーケティングや調査・分析手法を学ぶことにした。奨学生として一番強く感じたのは、何歳になっても学び続けなければならぬということ。学生たちの熱意に触れ、この一年間で「学ぶことは楽しい」と思うようになった。マーケティングについてもっと学びたいと思いついて、マーケティング部に所属している人々と図書館で一緒に勉強するようにになった。このような機会をくださったことに感謝したい。

寺浦 久仁香さん

早稲田大学 大学院 日本語教育研究科

日本語学校で教師をしている私は、より専門的に日本語教育に取り組むたいと考え、早稲田大学大学院の日本語教育研究科で学ぶことにした。日々の教育実践のなかで感じている疑問：例えば留学生が発音やイントネーションをどのように覚えていけばいいのかという技術的なこと、留学生が日本のコミュニ

テイにどのようなように根ざしていくことができるのかという社会的なことなどをさまざまな角度から考えることができた。

福富 俊幸さん

法政大学 大学院
人文科学研究科

「日本語の性質」や「日本語らしさ」を中国語や韓国・朝鮮語との比較といった地政学的・歴史学的な観点から考察する授業を受講した。クラスの受講者のうち私が唯一の日本人だったこと、同じクラスの14名の留学生たちが日本人以上に日本語に詳しいことに、非常に驚きを感じた。社会人が学ぶうえで障害となるのが、時間とお金の問題。社会人が利用できる奨学金は限られており、貴財団の奨学金は本当にありがたく感じた。



新たな観点から日本語を学んだ
福富俊幸さん

松原 みずえさん

北海学園
人文学部2部

「ボランティアをするならば、研修生・技能実習生として日本を訪れる外国人に日本語を教えられたら…」

という思いがあり、日本語教師養成課程に入学した。「日本文化概論」や「日本語概論」を受講し、漢字・ひらがな・カタカナさらにアルファベットも一緒に書けるような日本語は、他国からの文化を受け入れて融合させていく日本文化そのものを表している」と理解が深まった。今後は実践的な科目を履修して、またボランティアをはじめていきたいと考えている。



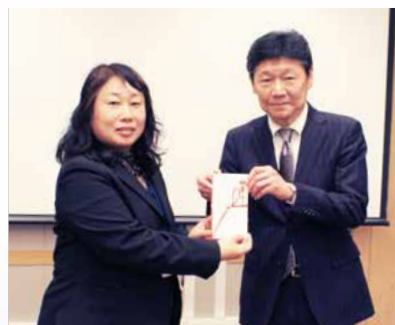
日本文化への理解が深まったと語る
松原みずえさん

放送大学大学院 修士全科生

恵谷 美香さん

「共依存からの回復における心理支援プロセスに関する研究」をテーマに、アルコール依存症患者の家族が集う「断酒会家族会」に通い、調査・研究を重ねた。家族のアルコール依存症の問題を家族以外の人に明らかにする時期が早ければ早いほど悪循環を打開し、状況をいい方向へもつていけることがわかった。さらなる研究が必要な部分もあるが、今回の研究はギャンブル依存など他

の依存症患者家族にも適用できるのではと考えられる。これからも心理学を学び続け、心理職として人々の心のケアに取り組みたい。



奨学金を授与される恵谷美香さん

栗田 裕子さん

「脳神経細胞ネットワークの人工的な作成、及びその生体反応」というテーマのもと、神経細胞のどのイオンチャネル化受容体が脳の神経変性疾患に関与しているかを調べる実験を行った。「ALS（筋萎縮性側索硬化症）」などの脳の神経変性疾患は、延命できる治療薬は開発されているものの、疾患そのものを根治させる治療薬の開発には至っていない。実験デバイスを改良しながら実験を繰り返してデータ量を増やし、疾患の解明や治療薬開発につなげられるよう今後も実験を続けたい。

小林 大二さん

長野県職員を定年退職した私は、長野県上田市にある2つの美術館「信濃テッサン館」「無言館」をテー

マに研究に取り組んだ。なかでも戦没画学生155名の遺作約600点が展示される「無言館」は、自身自身の生き方を問われる、魂の宿る空間だと感じた。今後は研究成果をもとに、学校や公民館の行事で訪れる人たちに「信濃テッサン館」「無言館」を紹介案内する活動を通じ、地域貢献に励みたい。

小峰 茂さん

「茶道を言葉で教えることが難しい」と思い、特に茶道の精神性をうまく言葉で教えられないと感じていた。千利休の教えや茶の心得を事細かに書き残したとされる山上宗二の書を中心に研究し論文にまとめたことにより、400年前の茶道の教えが言語化され、茶道を言葉で教えるうえでの理解が深まった。



和服で発表する小峰 茂さん

羽室 倫子さん

放課後等デイサービスで働いているが、「子供の自由遊びでは、すごいことが起こっているのだ」ということ

を保護者に訴えたいと思い、「子供の自由遊びにおける相互的な関わり」の場について」という研究に取り組んだ。

子供が全く同じ場にながら遠うおもちゃで点々と遊んでいるという状況から、やがて協力体制をつくって遊びはじめること、また「おもちゃ」「砂場の砂」といった物理的な物が核となり、やがて「しりとり」といった「言葉のやりとり」に発展していくという「遊びの構造」があることが見えてきた。今後もこの研究を深めていきたいと考えている。

山本 晃さん

記者・編集者として30年近く新聞社に勤務してきた。自社の新聞の投書欄が100年を迎えた際に100年前の投書を読み込む仕事に携わり、今から100年後には、自分たちが作っている記事よりも、投書欄のほうが記録として貴重かもしれないと思うようになった。そこで「投書欄の変遷（女性の参画を柱に）」をテーマに投書欄100年の歩みを辿って、時代ごとどのような投書があり、どのような議論が行われたかを研究した。



投書欄の変遷をテーマに研究した
山本晃一さん

歴史研修(その10)

2019年3月28日(木)~29日(金)



桜満開の宇和島城前で



伊予の城めぐり

今回の歴史研修では、農作物や水産物に恵まれ、古くから豊かな地として栄えてきた愛媛県伊予地方を探訪。桜咲く中、日本100名城に数えられる松山城などを巡り、春の訪れを感じながら学びを深めました。

解説

静岡大学名誉教授

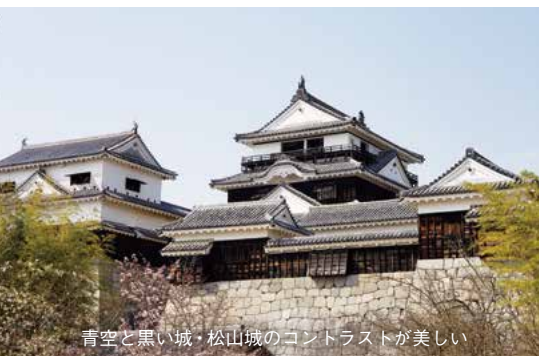
小和田 哲男さん



松山城

初めに訪れたのは、日本に12ある^{*}現存天守の一つを有する松山城です。この地には元々「松前城(あるいは正木城)」と呼ばれる城が築かれていましたが、城主の加藤嘉明が関ヶ原の戦いにおいて東軍で戦った戦功により、20万石の大名に出世。これを機に慶長5年、新たに松山城を同地に築城するとともに、地名を「松山」と名付けたとされています。

松山城は、下見板張りを採用した「黒い城」です。黄金趣味を持つ豊臣秀吉は「金箔瓦を一層映えさせる」として黒い城を好みましたが、その気質が秀吉の下で育った加藤嘉明にも受け継がれていたため、松山城を「黒い城」として築いたのです。



青空と黒い城・松山城のコントラストが美しい

^{*}現存天守とは：江戸時代またはそれ以前に築かれ、現在まで保存されている天守のこと。

「連立式天守」と嚴重な防衛態勢

松山城の特徴は、大天守や小天守など4つの天守・櫓を渡り廊下でつないだ「連立式天守」という複雑な構造で築かれていること。他にも丸亀城に次ぐ四国で2番目に高い石垣や230mにおよぶ国内最大規模の登り石垣が築かれたほか、死角には隠し門が設けられるなど、さまざまな戦を経験した加藤嘉明のもとで嚴重な防衛態勢が敷かれています。



松山城の石垣。奥に見えるのは「乾櫓」



松山城の天守から、本丸と松山市街を望む

湯築城

次に一行が訪れたのは、松山市の湯築城。古代から聖徳太子や天皇が湯治に訪れたことで知られる道後温泉のすぐ南側に位置しており、平安時代末期の源平争乱以前から約400年に渡って伊予国を治めた河野氏が根城としたとされています。

天文年間(1535~1555年)に築城された湯築城は、基礎幅約20m・高さ約5mという大掛かりな土塁に加え、内堀と外堀の間に家臣の居住区を設けるなど、当時としては他に類を見ない珍しい形態の城郭が築かれました。

また、発掘調査の結果、湯築城跡からは他の地域や外国から運



出土した遺物から当時の暮らしが想像される



宇和島城も現存天守の一つとして当時の姿が今も残されている



幕末に作られ現在まで保存されている宇和島城の天守模型

2日目に訪れた宇和島城は、加藤清正と並ぶ名築城家として名高い藤堂高虎が築きました。

宇和島城



湯築城の説明を聴く参加者

ばれてきたと思われる遺物が多数出土。水田も多く海産物も豊富に獲れた伊予国の豊かさをうかがい知ることができます。



宇和島城からの眺め。遠くに宇和海が見える

宇和島城を空から見ると、城郭が五角形で作られていることが分かります。四角形の城郭が一般的だったこの時代、五角形の城郭は非常に珍しく、曲がり角が多いことで攻め込んできた敵を攪乱させる狙いがあつたそうです。また、海からの侵入を困難にさせるため、宇和島城はあえて急峻で複雑な地形のリアス式海岸沿



満開の桜と大洲城

最後に訪れたのが、復元天守として有名な大洲城です。

大洲城

宇和島城と伊達家

藤堂高虎は、宇和島城の完成後ほどなくして今治に移ります。その後、慶長19年に仙台藩主・伊達政宗の長男である伊達秀宗が宇和島城に入城しました。秀宗は、側室の子であることから仙台藩を継ぐことができず、この地に入封したともいわれ、以降この地は伊予伊達家が治めることになります。

いに築かれました。こうした工夫からも、名築城家・藤堂高虎のしたたかさを垣間見ることができます。

明治6年に政府が発した「廢城令」によって、全国各地の城の多くが取り壊されてしまいました。その後、昭和や平成を迎え、全国各地で城を復元しようという機運が高まります。しかし、建築基準法の制約から大部分の城は鉄筋コンクリート造での復元となり、また、資料不足のため推定で復元するほかに正確性が疑問視される例も少なくありませんでした。

そんななか大洲城は、明治時代に撮影された写真や内部構造に関する資料が豊富に残されており、また地元・大洲市からの理解や支援が寄せられたことが大きな後押しとなり、当時の工法を用いた木造復元によって、ほぼ正確な姿で天守を蘇らせることができたのです。

ちなみに大洲城も藤堂高虎によって築城・整備されました。自然の地形を巧みに生かす藤堂高虎らしく、一級河川「肱川」の流れを利用して城郭を整えたといわれています。



趣ある佇まいの臥龍山荘・不老庵

一行はその後、肱川随一の景勝地・臥龍淵を臨む「臥龍山荘」を訪れ、帰途に着きました。今回の歴史研修は、桜咲き誇る伊予の風景を楽しみながら、今も現存する天守をはじめ戦国の世を知る貴重な資料に触れ、大名たちの軌跡に思いを馳せる2日間となりました。



天守から望む肱川の流れ

熱海・根府川の 美術館をたずねて

熱海に春の訪れを告げる国宝『紅白梅図屏風』、
力強く生命感溢れる澤田政廣の木彫、写真家杉本博司の世界観を表す建築群。
今春はアートと梅花、海を臨む風景を愛でる研修となりました。



1



2



4



3



- MOA美術館
- 澤田政廣記念美術館
- 江之浦測候所

最初の訪問先MOA美術館では「リニューアル3周年記念名品展第一部」と銘打った展示会を鑑賞しました。毎年梅の開花時期に合わせて展示される国宝、尾形光琳作『紅白梅図屏風』はもちろん、いずれも国宝の京焼の大成者野々村仁清作「色絵藤花文茶壺」や手鑑「翰墨城」をはじめとした数多くの東洋美術の名品を楽しみました。

茶の庭と呼ばれるエリアは植栽の緑が大変美しく、また紅白の梅が随所に配されています。庭園を散策して、現存する図面を基に尾形光琳の屋敷を復元した「光琳屋敷」を巡り、おいしい蕎麦の昼食に舌鼓を打ちました。

続いて訪れたのは、熱海梅園。残念ながら梅の見頃は過ぎていましたが、「梅まつり」で多くの見物客で賑わう中をのんびりと散策しながら、隣接する澤田政廣記念美術館

自由が丘駅
女神像「あおそら」



東急電鉄自由が丘駅ロータリーに立つ女神像「あおそら」は澤田政廣の作品です。戦前の昭和2年、自由が丘駅は「九品仏」という駅名でしたが、「衾駅」に改名することが内定していました。駅周辺に住んでいた文化人たちが新駅名採用に当たって熱心な要望活動を行い「自由ヶ丘」（現在は「自由が丘」）と変更されるに至りました。この運動に舞踊家の石井漠、画家の岡本太郎らとともに加わっていたのが澤田政廣でした。戦後復興に際しロータリーに外国広場のような彫像を設けようと、澤田が作品の依頼を受けました。以来、女神像はシンボルとして自由が丘の町を見守り続けています。



6



5



8



7



9

1江之浦測候所 明月院（室町時代）門前にて 2尾形光琳『紅白梅図屏風』MOA美術館所蔵 3野々村仁清『色絵藤花文茶壺』MOA美術館所蔵 4鑑賞の初めには沼辺信一講師による「見どころ」レクチャーがあり、参加者は熱心に聞き入っていました。会場はMOA美術館内スタジオ 5澤田政廣記念美術館 6天井ステンドグラス『飛天』 7夏至光遙拝100メートルギャラリー。海拔100m地点に100mのギャラリーが立つ。先端部分は海に向かって持ち出しとなっている。7はギャラリー側、8はその裏側 9光学ガラス舞台。檜の懸造りの上に光学ガラスが敷き詰められた舞台。冬至の朝、ガラスの小口には陽光が差し込み輝くのが見える 10海を見下ろす高台のいたるところから見える菜の花とみかんが印象的



10

を目指しました。熱海市出身で熱海市名誉市民、文化勲章受章の木彫家澤田政廣の彫刻の数々や墨彩などを鑑賞しました。エントランス天井のステンドグラス「飛天」を大切な方と手をつないで見上げると、いつまでも幸せでいられるとか……。

江之浦測候所は根府川駅近くの高台に位置しています。写真家杉本博司構想の建築群で、美術品鑑賞のためのギャラリー棟、待合棟、石舞台、茶室などから構成されています。昨年秋に散策の小道や竹林などが拡張整備されるなど、日々進化をとげています。参加者は広いエリアを思い思いに散策し、お気に入りの場所での写真撮影などを楽しみました。

「古美術を庭に並べてある昔ながらの美術館のようなところもあり、古代の遺跡のような感じもあり、冬至の日の出の方向とか古代文明のような要素もあり、江之浦測候所は類例のない面白い場所でした。MOA美術館の展示室のリニューアルも杉本が手掛けていることを考えると、同じ日の午前、午後と見られて、とても面白い組み合わせで良かったと思います。こういう場所こそバスツアーでなければなかなか来られないでしょう。もしかしたら次に来たときはカフェができてくるかもしれませんね。カフェがあるともっといいと思いませんか？」との沼辺講師のお話を車中であかっているうちに、バスは解散地の小田原駅へ到着しました。



北野財団混声合唱団

あの町 この町

日本の唱歌・ 叙情歌を集めて

2019年3月10日(日)

Program

第1部

ヴァイオリン独奏

赤とんぼ 山田耕筰 作曲

女声・同声合唱のための新編集曲

「日本唱歌四季のメドレー」より(真島 圭 編曲)

1. 花 武島羽衣 作詞/滝 廉太郎 作曲
2. 夏は来ぬ 佐佐木信綱 作詞/小山作之助 作曲
3. うみ 林 柳波 作詞/井上武士 作曲

男声合唱のため唱歌メドレー

「ふるさとの四季」より(源田俊一郎 編曲)

4. 紅葉 高野辰之 作詞/岡野貞一 作曲
5. 冬景色 作詞作曲不詳/文部省唱歌
6. 雪 作詞作曲不詳/文部省唱歌

混声合唱のための唱歌メドレー

「ふるさとの四季」より(源田俊一郎 編曲)

7. 故郷 高野辰之 作詞/岡野貞一 作曲

ヴァイオリン独奏

シチリアーノ M.T.V. パラディス 作曲

タイスの瞑想曲 J. マスネ 作曲

愛の喜び F. クライスラー 作曲

第2部

混声合唱とピアノのための「近代日本名歌抄」全曲
(信長貴富 編曲)

1. あの町この町 野口雨情 作詞/中山晋平 作曲
2. 宵待草 竹久夢二 作詞/多 忠亮 作曲
3. ゴンドラの唄 吉井 勇 作詞/中山晋平 作曲
4. 青い眼の人形 野口雨情 作詞/中山晋平 作曲
5. 影を慕いて 古賀政男 作詞作曲
6. カチューシャの唄 島村抱月・相馬御風 作詞/
中山晋平 作曲

復興ソング 花は咲く

岩井俊二 作詞/菅野よう子 作曲/山田 香 編曲【委嘱 初演】

このコンサートは、昨年まで開催されていた「東日本大震災鎮魂コンサート」が第5回の節目を迎えたことにより一旦幕を下ろし、更なる高みを目指して名称も新たに生まれ変わったものです。

ヴァイオリンとピアノの心温まる「赤とんぼ」の演奏から始まったコンサートは、公募により集まった総勢60名の合唱団員が半年間かけて練習に励み、日本語の持つ深い意味、美しいメ

ロディーを奏でながら、日本人の心の歌として長きにわたり歌い継がれてきた唱歌・叙情歌を感情豊かに歌いあげました。演奏者全員で奏でた「花は咲く」は、優しく力強い音色が会場内に響き渡りました。また、アンコールでは「故郷」を会場のみならずと共に歌い、想いがひとつになりました。

コンサート終了後には解団式があり、合唱指導をしてコンサートでの指揮をしていただいた先生方やヴァイオリン、ピアノの演奏家からご挨拶があり、「練習を始めたころは本当にこの日が迎えられるのだろうかと思った」という苦労話や、「本番では全員が心をひとつにして本当に素晴



練習からずっと演奏してくださった矢野里奈さん



ヴァイオリンの佐久間大和さん、ピアノの木戸俊輔さん

2019年奨学金授与式開催

◆音楽奨学生 ◆彫刻奨学生



福本泰之 愛知県立芸術大学
音楽学部長よりインタビュー
される奨学生の皆さん



城真二常務理事から
奨学金を授与



音楽学部新入生ガイダンス会場



長富将士さん
(声楽)



高橋慧希さん
(コントラバス)



満吉香苗さん
(フルート)

2019年4月4日、愛知県立芸術大学において、第11回音楽奨学生奨学金授与式が、入学式終了後の音楽学部新入生ガイダンス会場で行われました。

この奨学金制度は、当財団が芸術振興の一助として、同大学の学生を対象として2009年より実施しています。多くの学生の中から奨学生に選

ばれた3名に、城真二常務理事から奨学金が授与されました。奨学生たちは、選ばれた喜びとこれからの抱負を熱く語りました。今回の3名を加えると奨学生は34名になりました。奨学生の皆さんは卒業後、海外に留学されたり、楽団に入団されたり、後進の指導をされたりと各方面で活躍されています。

音楽奨学生 奨学金授与式



力強い指揮をされる竹内雅拳さん



優雅に指揮をされる荒牧小百合さん



MCも務めた竹内さんとお話をされる
荒牧さん

彫刻奨学生 奨学金授与式



「大きい手」
大濱 聡平さん
(日本大学)



「おやすみ」
小柳 春乃さん
(多摩美術大学)



「フタルス」
飯島 祐奈さん
(女子美術大学)



「差異と神話性」
宮崎 虹季さん
(日本大学)



「Balloon」
竹村 太一さん
(日本大学)



後列左から竹村さん、大濱さん、飯島さん、宮崎さん、小柳さん
前列左から鞍掛教授(日本大学)、大槻教授(日本大学) 城常務理事
村井教授(多摩美術大学)、平戸教授(女子美術大学)

2019年6月21日、財団ホールにおいて、第35回彫刻奨学生奨学金授与式が行われました。

この奨学金制度は、1985年から実施されており、今回の5名を加えると、これまでに129名が奨学生に選ばれています。

奨学生の作品は左記のとおりです。これからも素晴らしい作品ができあがることでしょう。

らしい演奏になりました」とお話がありました。また、ご来場いただいたみなさんからも「本当に良かった、素晴らしい」とお声をいただきました。

なお、コンサートによるチケット収入は被災地復興に役立てていただくよう、目黒区を通して被災地へ全額寄付されました。



コンサートパンフレット

ご報告



メディアアーティスト派遣

2019年1月30日、宮城県・気仙沼市立中井小学校にて、ワークショップ「手書きのおどろき盤とデジタルカメラを使ってプラクシノスコープを作ろう」を行いました。先生の指導の下、「裏側を黒く塗ったら何が変わるのだろうか？」と考え、発表しながら映



考えながら制作する児童たち

像装置を自ら作りました。児童だけでは参加された先生からも歓声が上がリ、美術や映像、科学の面白さ・楽しさを知るワークショップとなりました。

彫刻奨学生作品設置

2019年3月15日、2018年度彫刻奨学生の作品5体が、山梨県笛吹市にある「藤堡の滝大窪いやしの杜公園」内に設置されました。これまでに寄贈された彫刻は76体になり、笛吹市民の芸術および文化振興に役立てられています。



クレーンを使っての作品設置

声楽家アーティスト派遣

2019年6月3日・4日の2日間、福島県いわき市の小学校に声楽家アーティスト派遣を行いました。プロのアーティスト（声楽家・ピアニスト）の生の演奏を観て・聴いて、感じてもらい、豊かな感性を育むことが目的のこの取り組み。いわき市立豊間小学校（3日）と同永崎小学校（4日）の2校に派遣を行いました。

初めてプロの演奏を目の当たりにした児童たちは、素晴らしい演奏に一瞬にして心を奪われ聞き入っていました。最後には児童たちの手話を交えた元気の良い合唱もあり、児童たちの素直な歌声にプロのアーティストも感動していました。



「アラジン」より「ホール・ニュー・ワールド」を披露

「図書寄贈」への感謝状受領

当財団では、2010年から小・中学校への図書寄贈を行っています。2018年度からはあらたに秦野市、浜松市、岡崎市、東広島市、益城町に対しても行っており、それぞれの市から感謝状を授与されました。財団はこれからも、小・中学生の心の糧となるように図書寄贈を行っていきます。



秦野市の学校に寄贈された図書



浜松市から授与された感謝状

2019年度 財団奨学生決定

今年度の財団奨学生が決定しました。たくさん応募者の中から、科目等履修奨学生17名、放送大学大学院修士全科奨学生17名、放送大学選科履修奨学生16名が選ばれました。財団はこれからも向学心のある方々を助成していきます。

科目等履修奨学生

- | | |
|------------|-----------|
| 氏名(年齢) | 履修大学 |
| 家永 佳帆(29) | 首都大学東京 |
| 高橋 景子(34) | 早稲田大学大学院 |
| 小林 亮平(35) | 京都大学 |
| 工藤 秀平(25) | 早稲田大学大学院 |
| 糸川 重一(53) | 大阪市立大学 |
| 岩崎 杜恵(24) | 國學院大学 |
| 古賀 晋一郎(43) | 立正大学 |
| 松岡 聖子(58) | 國學院大学 |
| 清水 敦子(53) | 國學院大学 |
| 片岡 慎太郎(28) | 千葉商科大学大学院 |
| 椿 彰弘(34) | 早稲田大学大学院 |
| 鈴木 有輔(48) | 産業技術大学院大学 |
| 阿部 夏希(22) | 國學院大学 |
| 青山 和美(50) | 広島大学 |
| 佐貫 瑞穂(27) | 同志社女子大学 |
| 村田 崇行(25) | 東海大学九州 |
| 佐々木 優(27) | 学習院大学大学院 |

放送大学選科履修奨学生

- | | |
|-----------|------------|
| 氏名(年齢) | |
| 大久保 彩(34) | 赤尾 蘭子(30) |
| 遠田 輝枝(47) | 田中 美香(46) |
| 倉島 秀明(31) | 家久来 三典(58) |

安西 洋希(34) 田中 裕子(38)
 加賀谷 辰夫(54) 福田 博(52)
 小林 政生(36) 生駒 奈美(36)
 松永 麻衣子(48) 榎木 健介(42)
 市田 亜紀(49) 木場 葉子(54)

放送大学大学院修士全科奨学生

氏名(年齢)
 横山 翔(26) 西村 敏記(43)
 栗塚 祐二(37) 高須 一美(57)
 井上 絵里(58) 澤村 功(63)
 福良 和久(37) 中尾 聡志(40)
 金子 宏美(38) 相馬 淳子(50)
 吉田 亜矢子(49) 齋藤 里美(46)
 永戸 知美(44) 須藤 誠(33)
 岩城 健悟(30) 北方 美穂(57)
 玉生 ゆうこ(52)

お知らせ



美術研修(その59)
 あいちトリエンナーレ
 2019を訪ねて

日本のモノづくりをけん引する愛知県で3年に一度開催される『あいちトリエンナーレ2019』と豊田市美術館で同時開催のクリムト展、さらにメナード美術館を訪ねます。

日程 8月27日(火)～28日(水)
 定員 40名

デジタル一眼レフカメラ入門
 湯河原・熱海を撮る

デジタル一眼レフカメラの入門講座です。講義・撮影実習・作品投影と講評・懇親夕食会など盛りだくさんな内容です。素敵な瞬間を写してみませんか。後日、中日黒GTギャラリーで作品展を開催します。

日程 9月3日(火)～4日(水)
 会場 ニューウェルシティ湯河原
 (撮影は熱海周辺)
 定員 20名



アカオ ハーブ&ローズガーデンより海を望む

こ ● ち ● ら ● 編 集 室

今年の歴史研修で訪れた愛媛県松山市には、日本最古の温泉といわれる『道後温泉本館』があります。明治時代には夏目漱石や正岡子規ら文人墨客も足しげく通ったといわれており、夏目漱石の小説『坊ちゃん』の舞台になったことでも知られています。また近年ではアニメ『千と千尋の神隠し』に出てくる『油屋』のモデルではないかといわれています。

明治時代の近代和風建築の面影を色濃く残す建物は、平成6年に公衆浴場として

初めて国の重要文化財に指定されました。この歴史的建物を未来に遺すべく、今年1月から約7年間の保存修理工事が始まりました。客離れを心配する声も多くありましたが、逆転の発想で『魅せる工事』としてプロジェクトマネジメントやライティングを実施し、ライブカメラでは遠くにいながら工事の様子を観ることができ、今だけの特別な道後温泉を楽しんでみてはいかがでしょうか。

設立のねらい

当財団は、スタンレー電気株式会社の創業者北野隆春の私財提供により、生涯教育の振興をはかる目的で1975年6月23日、文部省(現文部科学省)の認可を得て発足し、2010年12月1日に公益財団法人となりました。当財団は、いつでもどこでもだれでも学べる機会をつくり、学ぼうとする方々に対し、より豊かな生きがいを持って、時代が求める諸事業を展開してまいります。

生涯教育だより

第120号

2019年7月10日発行

編集人 城 真二

発行人 北野 重子

発行所 公益財団法人 北野生涯教育振興会

〒153-0053

東京都目黒区五本木1丁目12番16号

電話 東京 03 (3711) 1111

表紙ギャラリー

当財団は、『出会いはドラマ、感動する心を大切に』というスローガンのもと、出合いを大切にし、さまざまな学ぶ機会を提供してきました。人との出合いだけでなく、城や神社仏閣などの歴史的建造物や長い歴史に育まれた美しい原風景との出合いからも学ぶことは多いのではないかと考え、『世界遺産』を財団機関紙でご紹介します。

厳島神社(広島県)

厳島神社は、平成8年(1996年)12月に世界文化遺産に登録されました。日本三景でもある厳島神社は、瀬戸内の海に浮かぶ、朱色の大鳥居と社殿がよく知られています。世界遺産としては、社殿を中心とする厳島神社と前面の海および原始林を含む背後の弥山など、広い範囲で登録されています。厳島神社は12世紀に時の権力者である平清盛の造営によって、現在見られる壮麗な社殿群の基本が形成されました。現在の厳島神社は、再建されたものですが、当時の建築様式が引き継がれていること、日本独自の宗教である神道、弥山をご神体とした自然崇拜、景観と一体となった建造物群が、世界文化遺産として登録された理由となっています。

宮島を訪れる際は、ぜひ弥山を登ってみてください(ロープウェイあり)。弥山の原生林、頂上付近の岩々、瀬戸内の眺望や上から見る厳島神社などの景色を心で感じてください。その神々しさ、ご神

体とする由縁を感じ取ることができます。

社殿や大鳥居は、潮の干満によって見え方が変わります。満潮のときは浮いているように見えますが、干潮のときは土台が見え、大鳥居まで歩いていけます。また大鳥居は、土台が地中に埋まっているわけではなく、海に置いてあるだけで、自重で立っているのです。厳島神社のお参りだけでなく、潮の満ち引きで見え方を比べたり、弥山にも登ったり、ゆっくり宮島を堪能してください。

*文章引用：宮島観光協会



放送大学
教授

岩崎 久美子さん

KUMIKO IWASAKI

学びの場づくりを通じ、 学び直しをしやすい社会に

研究助成金選考委員を務める岩崎先生は、長年、生涯教育のあり方について研究を深めてこられました。ご自身の独特な経歴を通じ、学び直しの普及にかける思いについてお聞きしました。



「専門としている研究領域について教えてください。」

生涯学習に関する研究をしており、中でも社会人の「学び直し」につながる、成人期の学習に関する理論や、自治体や公的機関による青少年や成人を対象にした「社会教育」の分野を専門としています。

「研究に携わることになったきっかけを教えてください。」

日本の研究者は、「大学で学士を取ってそのまま修士課程、博士課程に進む」という進路が一般的で、20代で博士課程に入る方がほとんどです。私のこれまでの人生の歩みはそのような研究者の王道とは少し異なっていて、その違いが、生涯学習というテーマに関心を抱く背景になったと思っています。

家族旅行で滞在したカナダにて撮影



大学で出会った、戦後の教育社会学における第一人者である清水義弘先生の「日本の資源は人材。人を育てることの先にこそ、日本の未来がある」という信念に感銘を受けた私は、就職先として文部省を志望。国家公務員一種試験を合格したものの、受験区分での文部省の

採用枠はなく、ひとまず職員として東北大学に赴任することになったのです。

赴任先の東北大学では、起案書も書けない自分の力不足を痛感しましたが、キャリアの大きな礎となった出来事としては、就職した翌年、破格の扱いで5週間にわたってアメリカの20近くの大学を視察する機会に恵まれたこと。アメリカ全土にわたるそれぞれの大学を訪問するうちに、留学生の受け入れ態勢や制度の充実を目の当たりにし、海外での教育や研究に興味を持つようになりました。

そのような経緯もあって、帰国後、将来の希望を聞かれた際、ダメ元で海外赴任に言及。ありがたいことにこの希望が叶い、ユネスコに派遣されることになりました。ところが、通常のコースとしてのユネスコ本部への派遣とは異なり、赴任先となったのは研究所。業務内容は、「途上国のエリート向けに講義をする」という、極めて高度なものでした。国籍の異なる同僚は欧米で博士号を取得し、将来はユネスコに残ることを希望するバリバリのエリートたちです。私はレポート作成業務くらいしかできず、無力感を抱きながら日々を過ごしたことを、今でもよく覚えています。

ユネスコへの派遣期間が終わった段階で東北大学に戻る際、文部省からその後のキャリアを打診されたのですが、国際機関で研究所に籍を置いたこともあって、私の中では

「研究をしたい」という思いが強くなりました。思い切ってその意を伝えてみたところ、文部省の一機関である国立教育研究所に研究官として異動することになりました。研究所では「修士相当」という下駄を履いた立場での研究官でしたので、異動したその年、

当時から夜間修士課程のあった筑波大学を受験。2年後に修士号を取得しました。その間の研究所での業務内容は、文部省から委託された政策に資する研究を依頼するため、専門の研究者のところに足を運んだり、自分で資料や報告書をまとめたり、といったもので、自分の探求心から取り組む「研究」とは少々毛色が異なるものでしたが、それでも私にとっては面白く、やりがいのある仕事でした。同時に、修士号を取得した頃から、自分で研究費を獲得し好きな内容の研究をできるようにになっていきました。そのような中で、

所属していた国立教育研究所に新しくできた生涯学習政策研究部で人員補充の必要性が生じ、所内で異動。そこから本格的に生涯学習政策に関わる研究業務に従事するようになったのです。しかし、その一方で、優秀な先生方と一緒に仕事をしていく中で、真の実力をつける必要性を痛切に感じることも多く、その思いから仕事の傍ら筑波大学の博士課程に進学し、博士号を取得。その後はずっと政策研究の現場にいたのですが、3年前に

生涯学習の実践の場である放送大学の教員となり、今に至ります。

思えば私は、職業上で壁にぶち当たる度に「こんなはずじゃない」ともがき、必要に迫られて学び直しをしながら、現在の道に至るキャリアを重ねてきたように感じます。

「今後の目標を教えてください。」

「人生100年時代」の到来が近づく中で、学び直しの重要性が高まりつつあります。しかし、学びたくても時間やお金がなく、意欲が断たれてしまうケースも少なくありません。学ぶことは人生への前向きな働きかけです。学び直しに向けた人それぞれの自発的な学習活動を応援するためにも、今後は成人のための学びの場づくりに貢献できたらと思っています。

「北野生涯教育振興会についての印象をお聞かせください。」

試行錯誤しながら自分のキャリアを積む中で、私は学習することによって多くの恩恵を受けてきました。自分の人生を重ね合わせることによって、年齢を問わず、多くの人々に対し生涯にわたる学習への支援を行っている北野生涯教育振興会の事業内容には、深い意義を感じ、その趣旨に共感しています。ぜひ、北野生涯教育振興会には、今後も人々が豊かな人生を送るきっかけになる学びの機会に対し、広く長く支援を続けてほしいと思います。

「ご自身の経験を通じて、学び直し、そして生涯教育の意義を説いてくださった岩崎先生。生涯教育の場づくりを目指す岩崎先生の、さらなる研究の発展とご活躍を祈念します。」